

会 報

No.56 (1997年2月)

目 次

| | |
|--|----|
| ◆第10回 評議員選挙結果報告..... | 1 |
| ◆日本学会議会員候補者の推薦 | 1 |
| ◆第20回 (1997年) 日本分子生物学会年会のお知らせ (その2) | 1 |
| ◆第2回 <i>C. elegans</i> 講習会のお知らせ..... | 4 |
| ◆学術賞、研究助成の本学会推薦について | 5 |
| ◆各種シンポジウム、講習会のお知らせ | 8 |
| ○第11回「大学と科学」公開シンポジウム「HIV/AIDS 研究はいま」 | |
| ○神奈川科学技術アカデミー「平成8年度第IV期教育講座」「平成9年度第I期教育講座」 | |
| ○第9回 日本蛋白質学会年会 | |
| ○第3回 家族性腫瘍研究会学術集会 | |
| ○第17回 国際 tRNA ワークショップ | |
| ○第1回 マリンバイオテクノロジー学会大会 | |
| ○6th International Perspectives on Protein Engineering | |
| ○第13回 国際比較内分泌学会議 | |
| ◆ GENES TO CELLS Order Form-1997 Subscription | 12 |

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

◆日本分子生物学会 第10回 評議員選挙結果報告

選挙公示・投票用紙発送：1996年11月15日（金）
投票締切：1996年12月10日（火）
開票：1996年12月16日（月）
開票場所：大阪大学微生物病研究所南館3階セミナー室
開票者：選挙管理委員（品川日出夫、大熊芳明、東雄二郎）
開票結果：投票総数 2850票
白票 503票
無効 175票

当選者（50音順）：饗場弘二[°]、石浜 明、岩淵雅樹、大石道夫[°]、大塚栄子、小川英行[°]、
近藤寿人、榭 佳之[°]、品川日出夫[°]、杉野明雄、谷口維紹、辻本賀英、
長田重一、中西重忠[°]、花岡文雄、松原謙一[°]、三浦謹一郎[°]、村松正実[°]、
柳田充弘、吉川 寛

（[°]印は第9期より連続して選出された方です）

◆日本学術会議会員候補者の推薦

日本学術会議第17期会員に内田久雄氏（第16期会員）を日本分子生物学会より推薦し、推薦人に関口陸夫氏、三浦謹一郎氏、松原謙一、推薦人予備者に吉川寛氏を届け出ました。

会長 松原謙一

◆第20回（1997年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その2）

会報 No. 55 でお知らせいたしました通り、第20回年会は、1997年12月16日（火）から19日（金）まで、京都市の国立京都国際会館および京都宝ヶ池プリンスホテルにて開催されます。今回の年会は、ポスターによる一般演題、ワークショップ、シンポジウム、テクニカルセミナー、異分野セミナーで構成されます。内容（概略）および応募方法については以下の通りです。

1. 一般演題

一般演題は、すべてポスターで行います。応募方法の詳細につきましては、会報 No. 57（5月上旬発行予定）に掲載いたします。今回は、初めての試みとして、抄録をCD-ROMで発行する予定です。応募方法が従来と異なりますので、充分にご注意下さい。演題申込締切日は1997年7月31日（木）を予定しております。

〈応募方法について従来と異なる点〉

- 1) 事務局より発行される専用のフォーマットを使用させていただきます。専用フォーマットは、会報 No. 57 に添付する予定です。
- 2) フォーマットはパソコン（Macintosh）専用です。パソコン（Macintosh）を使用して入力願います。

- 3) プログラム編集用に演題、演者、所属、アブストラクトなどを入力したフロッピーディスク (Macintosh フォーマット) と印書したのも同時に添付いただくことになりましたので、ご協力下さいようお願いいたします。

※どうしても、Macintosh のパソコンでの入力が必要な方は、以下のどれに該当するかをご記入の上、FAX にて事務局〔宛先：(075)762-2304〕までご連絡下さい。

1. MS-DOS のみ可能
2. Windows の使用が可能
3. ワープロのみ
4. 全くコンピュータ入力ができない

2. ワークショップ

32テーマほどを考えており、一般公募を行います。ワークショップのオーガナイズを希望される方は、「ワークショップのテーマと概要 (400字程度)、オーガナイザー2名と演者3名の氏名、所属、肩書」を、1997年2月末日までに、下記まで送付 (郵便またはFAX) して下さい。公募をもとに、日程、会場、シンポジウムとの関係をプログラム委員会で検討の上採否を決定いたしますので、採択されないこともありうることをあらかじめご了承下さい。

ワークショップテーマ送付先：〒606-01

京都市左京区吉田近衛町
京都大学大学院医学研究科 分子細胞情報学講座
第20回 日本分子生物学会年会
プログラム委員長 月田承一郎 宛
Fax. (075)753-4660 Tel. (075)753-4378

3. シンポジウム

今回は公募は行わず、プログラム委員会の企画による、外国からの招待講演者を含む3人前後の演者からなる12のシンポジウムを行う予定です。3つのシンポジウムが同時進行する形をとります。

4. テクニカルシンポジウム・異分野セミナー

内容が決まり次第、発表いたします。

第20回 日本分子生物学会年会

年会長 本庶 佑

第20回 日本分子生物学会年会 準備委員会名簿

準備委員長

本庶 佑 京都大学医学部 分子生物学

準備委員

伊藤 嘉明 京都大学ウイルス研究所 細胞制御
 伊藤 維昭 京都大学ウイルス研究所 構造形成学
 石本 秋稔 京都大学ウイルス研究所 がん遺伝子
 重定 勝哉 京都大学ウイルス研究所 情報高分子化学
 佐邊 壽孝 京都大学ウイルス研究所 感染防御
 村上 洋太 京都大学ウイルス研究所 細胞制御
 糸原 重美 京都大学ウイルス研究所 高次生体情報
 永田 俊夫 京都大学ウイルス研究所 分子遺伝学
 志田 壽利 京都大学ウイルス研究所 構造形成学
 縣 保年 京都大学遺伝子実験施設
 松田 文彦 京都大学遺伝子実験施設
 垣塚 彰 京都大学医学部 神経・細胞薬理学
 中西 重忠 京都大学医学部 生体情報科学
 影山龍一郎 京都大学医学部 生体情報科学
 永瀧 昭良 京都大学医学部 分子細胞情報学
 西澤 誠 京都大学医学部 分子腫瘍学
 生田 宏一 京都大学医学部 分子生物学
 近藤 滋 京都大学医学部 分子生物学
 藤田 潤 京都大学医学部 分子病診療学
 上田 國寛 京都大学化学研究所 生体反応設計
 杉浦 幸雄 京都大学化学研究所 生体反応設計
 岡 穆宏 京都大学化学研究所 生体分子情報
 金久 寛 京都大学化学研究所 生体分子情報
 樋口 京一 京都大学胸部疾患研究所 老化生物学
 酒井 裕 京都大学農学部 生物化学
 佐藤 文彦 京都大学農学部 分子細胞育種学
 藤堂 剛 京都大学放射線生物研究センター
 立花 章 京都大学放射線生物研究センター
 川寄 敏祐 京都大学薬学部 生物化学
 市川 厚 京都大学薬学部 衛生化学
 岩瀧 雅樹 京都大学理学部 遺伝情報制御学
 柳田 充弘 京都大学理学部 細胞周期増殖

竹市 雅俊 京都大学理学部 高次体制発生
 山岸 秀夫 京都大学理学部 ゲノム情報
 宮田 隆 京都大学理学部 DNA 情報学
 千坂 修 京都大学理学部 分子発生学
 小笠原直毅 奈良先端科学技術大学院大学
 竹家 達夫 奈良先端科学技術大学院大学
 加藤 順也 奈良先端科学技術大学院大学
 川市 正史 奈良先端科学技術大学院大学
 古久保哲朗 奈良先端科学技術大学院大学
 田中 信之 奈良先端科学技術大学院大学
 吉川 寛 奈良先端科学技術大学院大学
 釣本 敏樹 奈良先端科学技術大学院大学
 安田 國雄 奈良先端科学技術大学院大学
 梅園 和彦 奈良先端科学技術大学院大学

プログラム委員長

月田承一郎 京都大学医学部 分子細胞情報学

プログラム委員

武田 俊一 京都大学医学部 分子免疫学・アレルギー学
 西田 栄介 京都大学ウイルス研究所 情報高分子化学
 米原 伸 京都大学ウイルス研究所 生体発がん機構
 成宮 周 京都大学医学部 神経・細胞薬理学
 永田 和宏 京都大学胸部疾患研究所 細胞生物学
 岡田 清孝 京都大学理学部 応答機構学
 西川 伸一 京都大学医学部 分子遺伝学

実行委員長

清水 章 京都大学遺伝子実験施設

実行委員

野田 亮 京都大学医学部 分子腫瘍学
 大山 莞爾 京都大学農学部 植物分子生物学
 伊藤 信行 京都大学薬学部 遺伝子薬品学
 高橋 直樹 奈良先端科学技術大学院大学
 月田早智子 京都大学医療技術短期大学部
 梶崎 弘幸 京都大学化学研究所附属核酸情報解析施設

◆第2回 *C. elegans* 講習会のお知らせ

材料としての種々の利点、ゲノムプロジェクトや世界的な研究の進展を背景として、日本でも *C. elegans* の研究を新たに始めたいと希望する方が多数おられます。そのため、昨年7月に行われた第1回 *C. elegans* 講習会では、希望者の2/3 (30名)の方が参加できないという結果となりました。このような状況の中で、日本分子生物学会からの要請と援助により、第2回 *C. elegans* 講習会(実習コース)を開くことになりました。今回は、*C. elegans* に関する経験のない方にできるだけ多くご参加いただきたいと考えています。

会 期：1997年7月28日(月)～8月2日(土)

会 場：九州大学理学部生物学教室(福岡市東区箱崎6丁目)

講習内容(予定)：

1. 実習：*C. elegans*の基礎的取扱い、遺伝学の基礎、DNAの導入(微量注入)、遺伝子発現の解析(GFPまたはlacZ融合タンパク、抗体染色)、データベースの利用
2. 解説またはデモ実験：変異株の分離、DNA・RNAの抽出、遺伝子破壊、細胞(核)の同定、*in situ* hybridization、ゲノムプロジェクト、研究関連情報など
3. セミナー：内容未定

講 師：森 郁恵、古賀誠人、大島靖美(九大・理)、細野隆次(金沢大・医)、
(予定) 香川弘昭(岡山大・理)、三谷昌平(東京女子医大)、佐野 亨(NEC)、
小原雄治、安達佳樹(国立遺伝研)

定 員：15名

応募資格：大学卒業程度の学歴および生物学、分子生物学、遺伝子クローニング等の基礎的知識を有すること。身分、所属学会、*C. elegans*の研究経験は問わない。応募者が定員を越える場合には、応募者の予定している *C. elegans* 研究の有効性や必要性、今までの研究の内容などを基準として、受講者を選定する。

費 用：受講料は無料。交通費、宿泊費、食費は原則として受講者が負担する。可能であれば希望者に旅費の一部を援助する。

申込方法：1)氏名、所属、身分、年齢 2)連絡先(郵便番号、住所、電話、FAX、E-mail) 3)応募理由(現在までの研究の概要、応募の目的等、400～800字) 4)旅費援助希望の有無および有の場合金額をA4判用紙1枚にワープロで記載し、宛名を書いた返信用封筒とともに下記に郵送して下さい。希望事項があれば、一緒にお書き下さい。

申込締切：1997年5月30日(金) 必着

申込・問合せ先：〒812-81 福岡市東区箱崎6-10-1

九州大学理学部生物学教室 大島靖美

Tel. (092) 642-2626 (直通) Fax. (092) 642-2645

E-mail: yohshscb@mobox.nc.kyushu-u.ac.jp

講習会企画準備委員：

大島靖美(世話人)、森 郁恵、古賀誠人(九大)、香川弘昭(岡山大)、桂 勲、
小原雄治(国立遺伝研)、細野隆次(金沢大)、三谷昌平(東京女子医大)、
石井直明(東海大・医)、山本正幸(東大・理)

◆学術賞、研究助成の本学会推薦について

例年、本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞・研究助成を、以下に一覧として掲載します。そのうち応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先へ確認をお願いいたします。申請書類は各自お取寄せ下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出資料：

- 1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
- 2) 本学会の5名の選考委員用および学会控に、上記申請書類のコピー計6部（論文は不要）
- 3) 申込受付確認のための葉書（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

2. 提出期限：

本申請の1カ月前までに、日本分子生物学会庶務幹事まで郵送して下さい（4月に役員を交代しますが、それまでは〒565 吹田市山田丘1-3 大阪大学細胞生体工学センター 日本分子生物学会 庶務幹事 近藤寿人〔Fax. (06)877-1738〕宛）。

| 名 称 | 連 絡 先 | 件 数 | 縮 切 | 助成内容等 | 概 要 |
|---|---|---|---|---|--|
| 第28回三菱財団 自然科学研究助成 | (財)三菱財団 ☎ (03) 3214-5754 〒100 千代田区丸の内 2-5-2 | ・総額3億円 30件程度 | 1997年 2月21日 | 1件当たり2,000万円 まで | 自然科学の基礎となる独 創的、かつ先駆的研究と ともに、国際的發展に先 導的役割を担う萌芽とも なる研究（原則として個人 研究）。 |
| 新化学発展協会 1997年度研究奨励 金 | (社)新化学発展協会 ☎ (03) 3294-8031 〒101 千代田区神田駿河 台1-5 | 7課題、 各課題1件 | 1997年 3月3日 | 1件 150万円 | 新化学の発展に資する若 手研究者（39才以下）の 研究に対して、研究奨励 金を交付。 研究課題有り。 |
| 山田科学振興財団 1997年度研究援助 | (財)山田科学振興財団 ☎ (06) 757-3311 〒544 大阪市生野区巽西 1-8-1 | 10件程度 (2件) | 1997年 3月31日 | 1件当たり100～ 500万円、総額 4,000万円 | 自然科学の基礎的研究に 対しての研究費援助。 |
| 日本生命財団研究 助成 | (財)日本生命財団 ☎ (06) 204-4012 〒541 大阪府中央区今橋 3-1-7 日本生命今橋ビル | 総額 1億円程度 | 1997年* 5月19日 | 申請金額に制限 なし | 「人間活動と環境保全と の調和に関する研究—自然 と人間の共生への新しい 道を求めて—」の趣旨 に沿った研究のうち、「人 間活動と自然環境との関 係（人間と自然環境の共 存）」関連分野で、かつ 現在および将来の重要課 題。 |
| ファルマシアバイ オテック分子生物学 若手研究者奨学金 | ファルマシアバイオテック(株) 本社プロモーション室 ☎ (03) 3492-7864 〒141 品川区上大崎 4-5-37 本多電機ビル (応募先) Young Scientist Prize Selection Committee, SCIENCE 1333 H Street, N.W., Room 924, Washin- gton DC 20005, USA | 8名以内 | 1997年* 5月31日 | 最優秀賞金 US\$ 20,000 その他の受賞者 US\$ 5,000 | 1995年より SCIENCE 誌 との協賛で、学位取得直 後の優秀な若手研究者を 支援するために Pharmacia Biotech & SCIENCE Prize for Scientists in Molecular Biology を設 置。 |
| 国際生物学賞 | 国際生物学賞委員会 ☎ (03) 3263-1721 〒102 千代田区麹町5-3-1 ヤマトビル 日本学術振興会内 | 1件 (1件) | 1997年* 6月30日 | 賞状、賞牌 1,000万円 | 生物学の研究において世 界的に優れた業績を挙げ、 世界の学術進歩に大き な貢献をした研究者 (昨年度、授賞分野は生 殖の生物学)。 |
| 第15回研究助成 第14回国内および 海外留学補助金 第14回持田記念学 術賞 | (財)持田記念医学薬学振興 財団 ☎ (03) 3358-7211 〒160 新宿区四谷1-7 | ・総額 4,200万円 ・総額 500万円 ・2件以内 (1件) | 1997年* 6月30日 1997年* 6月30日 1997年* 7月31日 | ・1件 100万円 ・1件 50万円 ・1件 300万円 | 生命科学・薬物科学・情 報科学・生体工学と医療 応用の研究の分野におけ る研究で、顕著な功績が あり、かつ新進気鋭の研 究者。 |
| 第24回日産学術研 究助成 | (財)日産科学振興財団 ☎ (03) 3543-5597 〒104 中央区銀座6-17-2 | ①一般研究 10件程度 (2件) ②奨励研究 25件程度 (枠なし) | 1997年* 8月31日 | ①1,000万円まで ② 200万円まで | 自然科学分野で、それぞ れの研究の成果が学術の 進歩、発展に貢献するこ ろが大きいと思われる もの、新しい研究分野の 開拓に貢献するもので、 45歳以下の研究者および 研究グループ。 |
| 第5回日産科学賞 | | ・2件 (1件) | | ・賞状、メダル 500万円 | 自然科学分野で、学術文 化の向上発展に大きな貢 献をした満50才未満の研 究者。 |
| 笹川科学研究助成 | (財)日本科学協会 ☎ (03) 3502-1931 〒105 港区虎ノ門1-11-2 第2船舶振興ビル | 330件 | 募集期間 1997年* 9月1日 ～ 10月31日 | 1件当たり100万円ま で | 人文学、社会科学および 自然科学（医学を除く）、 または境界領域の研究計 画に関するもの。4月1 日現在、35才以下の若手 研究者へ助成。 |

| 名 称 | 連 絡 先 | 件 数 | 締 切 | 助成内容等 | 概 要 |
|-----------------|---|------------------------------------|-----------------------------|-------------------------|--|
| 上 原 賞 | (財)上原記念生命科学財団 ☎ (03) 3985-3500 〒171 豊島区高田3-25-3 | 2 件以内 (1 件) | 1997年* 9 月10日 | 金牌 1,000万円 | 生命科学の栄養学、薬学、基礎および臨床医学、社会医学で顕著な業績をあげ、引き続き活躍中の研究者。 |
| 井 上 学 術 賞 | (財)井上科学振興財団 ☎ (03) 3477-2738 〒150 渋谷区猿楽町11-20 | 5 件以内 (1 件) | 1997年* 9 月20日 | 1 件賞状、メダル 200万円 | 自然科学の基礎的研究者で特に顕著な業績をあげた者(ただし締切日現在満50歳未満)。 |
| 木原記念財団学術賞 | (財)木原記念横浜生命科学振興財団 ☎ (045) 825-3487 〒244 横浜市戸塚区舞岡町641-12 | 1 件 (1 件) | 1997年* 9 月30日 | 賞状、記念牌 200万円 | 最近において生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている国内の研究者で、原則として50才以下の者。 |
| 東レ科学技術賞 | (財)東レ科学振興会 ☎ (0473) 50-6103 〒279 浦安市美浜1-8-1 東レビル | 2 件前後 (2 件) | 1997年* 10 月 9 日 | 1 件 賞状、金メダル 500万円 | 学術上の業績顕著な者、学術上重要な発見をした者、重要な発明により効果が大きい者、技術上の重要問題を解決し貢献が大きい者。 |
| 東レ科学技術研究助成 | | 総額 1 億3,000万円 10件程度 (2 件) | 1997年* 10 月 9 日 | 特に定めず最大 3,000万円まで | 基礎的な研究に従事し、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる、独創的、萌芽的な研究を活発に行っている若手研究者。 |
| 第29回科学振興賞 | (財)内藤記念科学振興財団 ☎ (03) 3813-3005 〒113 文京区本郷3-42-6 NKD ビル 8 階 | 1 件 (1 件) | 1997年* 11 月20日 | 正賞、金メダル 300万円 | 人類の健康の増進に寄与し得る自然科学の基礎的研究、なかんずく疾病の予防と治療に関する独創的テーマに取り組み、自然科学の進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者。 |
| 第29回海外学者招聘助成金 | | 前後期各総額 500万円 (1 件) | 1997年* 7 月10日 11 月20日 | 1 件 50万円まで | 同上のテーマに取り組み、国際的に高い評価を得ている外国の研究者。 |
| ブレインサイエンス財団研究助成 | (財)ブレインサイエンス振興財団 ☎ (03) 3273-2565 〒104 中央区八重洲 2-6-20 | ・ 8 件 (1 件) | 1997年* 11 月29日 | ・ 1 件 80万円 | ブレインサイエンス研究分野(脳神経に関する自然科学的研究をすべて含む研究領域)において独創的で国際的評価に値する研究者。なるべく若い者、単独または共同研究も可。 |
| 塚原仲晃記念賞 | | ・ 1 件 (1 件) | | ・ 1 件 100万円 | |
| 研 究 助 成 | (財)長瀬科学技術振興財団 ☎ (06) 535-2117 〒550 大阪市西区新町 1-1-17 | ・ 10数件 | 1997年* 12 月15日 | ・ 1 件 250万円程度 | 生化学および有機化学等の分野において研究活動を行う研究者または研究機関。 |
| 国 際 交 流 助 成 | | ・ 10件程度 | 1997年* 12 月15日 | ・ 1 件 50万円程度 | 生化学および有機化学等の分野において研究調査を行う研究者の海外派遣または招聘(除く留学)。 |
| 海外派遣研究助成 | (財)ブレインサイエンス振興財団 ☎ (03) 3273-2565 〒104 中央区八重洲 2-6-20 | ・ 総額 120万円 (1 件) | 1998年* 1 月17日 | ・ 1 件 30万円まで | ブレインサイエンスの研究の促進を図るため、国際学会、シンポジウム等への参加、あるいは研究者の派遣を助成。 |
| 海外研究者招聘助成 | | ・ 総額 100万円 (1 件) | | ・ 1 件 30万円まで | 同分野において独創的テーマに意欲的に取り組んでいる外国人研究者の招聘を助成。 |

() 内は、応募に当たり学協会等からの推薦が必要な場合本学会よりの推進枠を示しています。

*は、本年度の案内を受取っておらず、昨年の締切日を参考に示してあります。

◆各種シンポジウム、講習会のお知らせ

○第11回「大学と科学」公開シンポジウム

「HIV/AIDS 研究はいま」—基礎研究の現場から—

会 期：1997年2月15日(土)～16日(日)

会 場：有楽町朝日ホール

(千代田区有楽町2-5-1)

プログラム：

1997年2月15日(土)

1. 基調講演(10:00～10:30)

司会 野本明男(東大・医科研 教授)

HIV/AIDS 研究はいま

永井美之(東大・医科研 教授)

2. HIV—その生態と細胞内増殖(10:30～14:40)

司会 足立昭夫(徳島大・医 教授)

松島綱治(東大・医 教授)

1) HIV とレンチウイルスの世界

速水正憲(京大・ウイルス研 教授)

2) アジアにおける HIV/AIDS

武部 豊(国立予研 室長)

3) 標的細胞への結合と侵入のメカニズム

服部俊夫(京大・ウイルス研 助教授)

4) ウイルス遺伝子発現—転写と転写後調節

岡本 尚(名古屋市大・医 教授)

5) ウイルス遺伝子発現—翻訳レベルでの調節

中村義一(東大・医科研 助教授)

3. 個体のなかでの HIV (14:50～17:10)

司会 星野洪郎(群馬大・医 教授)

1) 感染の自然史と臨床経過

岩本愛吉(東大・医科研 教授)

2) SCID/hu マウスによるシミュレーション

田中勇悦(北里大・理 助教授)

3) サルによるシミュレーション

柴田りり(米国立衛研 研究員)

1997年2月16日(日)

1. HIV と宿主の攻防(10:00～12:40)

司会 斉藤 隆(千葉大・医 教授)

内山 卓(京大・ウイルス研 教授)

1) 免疫機構破壊のメカニズム

内山 卓(京大・ウイルス研 教授)

2) ウイルス蛋白による免疫機能の抑制

: 持続感染解明への手がかりを求めて

高橋秀実(日本医大 助教授)

3) 細胞傷害性 T 細胞による HIV の認識と排除

滝口雅文(東大・医科研 助手)

4) 感染者の免疫強化の為の基礎研究

松下修三(熊本大・医 助手)

2. エイズ制御にむけての基礎研究(13:50～15:45)

司会 山本直樹(東京医歯大・医 教授)

1) ヒトと HIV の共生をめざした抗エイズ薬

木曾良明(京都薬大 教授)

2) 遺伝子治療—現状と課題

島田 隆(日本医大 教授)

3) 粘膜ワクチンの開発—現状と課題

清野 宏(阪大・微研 教授)

3. 特別講演(15:50～16:50)

司会 永井美之(東大・医科研 教授)

エイズ制御の新たな展望

満屋裕明(米国立がん研 主任研究員)

入場無料/希望者が多数の場合は抽選となります。

申込・問合せ先：

聴講申込は希望日、〒、住所(自宅か勤務先かを明記)、氏名、TEL をご記入の上、ハガキまたは FAX にて事務局まで。

〒102 千代田区飯田橋4-6-5 TH 第4ビル4F

クバプロ内「HIV/AIDS」事務局

Tel. (03)3238-1689 Fax. (03)3238-1837

主 催：

第11回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会

○神奈川科学技術アカデミー

「平成8年度第Ⅳ期教育講座」—アポトーシス実験法入門コース—

細胞死(アポトーシス)検出法を中心に

これから研究を始められる研究者、あるいはこれまでに研究を行っている方にも役立つアポトーシス関連実験法、特にアポトーシス細胞の検出法を紹介するのが本コースのねらいです。

カリキュラム編成者

山田 武(東邦大・医 教授/理学博士)

講義日：1997年3月11日(火)～14日(金)

主なカリキュラム内容：

アポトーシス検出法総論/アポトーシスの分子機構(死のシグナル伝達から実行過程までの多様な分子制御機構)/検出法各論(細胞学的方法、生化学的方法)/アポトーシス関連遺伝子実験法/総括および総合討論

[検出法実習(組織化学・生化学)]細胞死の一般的検出法/蛍光染色法など顕微鏡観察/アポトーシスに特異的なDNA断片化を検出する/電気泳動法<ラダー像の検出>/組織化学的検出による組織内でのアポトーシス細胞の局在部位の同定法/フローサイトメトリーによる検出法[東邦大学医学部生物学教室]

募集人員：20名

受講料：60,000円

KAST 法人賛助会員(事業所単位) 54,000円

問 合 先：〒213 川崎市高津区坂戸3-2-1 KSP 西棟6

階(教育部教育研修課)

Tel. (044)819-2033 Fax. (044)819-2026

「平成9年度第Ⅰ期教育講座」—医療品開発のためのシグナル伝達コース—

シグナル伝達機構の解明を病気の診断、治療に役立てる

このコースは、シグナル伝達の異常から起こる疾病について着目し、その病気のおこるメカニズムについて解

説し、治療にむけての方向性について専門の先生方に最新のお話しをしていただきます。コースの構成としては、シグナル伝達系分子の構造と機能の基礎的な概念を

学ぶプレコースと病気とシグナル伝達の関係について学ぶ本コースを設けました。シグナル伝達について基礎から学びたい方はプレコースから、またシグナル伝達の問題から医薬品開発について学びたい方は本コースから受講することができます。

カリキュラム編成者

新井賢一 (東大・医科研 教授/医学博士)

講義日: 5~6月 (プレコース 2日間 本コース 6日間)

主なカリキュラム内容:

[プレコース] シグナル伝達経路の概要/受容体/細胞膜リン脂質代謝/セカンドメッセンジャー/たんぱく質リン酸化

[本コース] 生理学から見たシグナル伝達/免疫系のシグナル伝達/神経系のシグナル伝達(1)(2)/内分泌系のシグナル伝達/シグナル伝達病(1)(2)/肥満とシグナル伝達(1)(2)/癌とシグナル伝達(1)(2)(3)(4)/薬の開発とシグナル伝達/創薬研究の新たな課題

募集人員: 20名

受講料: プレコース・本コース 84,000円

KAST 法人賛助会員 (事業所単位) 75,600円

本コースのみ 63,000円

KAST 法人賛助会員 (事業所単位) 56,700円

問合せ先: 〒213 川崎市高津区坂戸 3-2-1 KSP 西棟 6階 (教育部教育研修課)

Tel. (044)819-2033 Fax. (044)819-2026

○第9回 日本蛋白質工学会年会

第9回日本蛋白質工学会年会を下記のように開催予定しております。今回は、特別講演は企画しておりません。その代わりとして細胞生物学と蛋白質化学および構造学との連携を目指したシンポジウムを予定しております。これまで以上に、様々な方面からの演題を募集しています。発表は口頭 (発表時間10分、討論5分) とポスター (1分程度のポスタープレビューを含む) の形式で行います。

年会準備委員会代表 森川耿右

シンポジウム (タイトルは仮題):

5月7日 (水) 14:00~18:00 「生体機能と分子認識」

1. 転写における分子認識

京極好正 (阪大・蛋白研)

2. スプライシングにおける分子間相互作用

志村令郎 (生物工研)

3. シグナル伝達と蛋白質間相互作用

高井義美 (阪大・医)

4. 細胞骨格と蛋白質間相互作用

月田承一郎 (京大・医)

5. 糖鎖と蛋白質の相互作用 木幡 陽 (都老人研)

6. 多機能酵素の触媒システム

猪飼 篤 (東京工大・生命理工)

5月8日 (木) 14:30~18:00

「医薬品設計を目指して: 分子認識の問題点」

1. 蛋白質の分子認識機序 (総論)

中村春木 (生物工研)

2. 医薬品デザイン (総論)

石黒正路 (サントリー生有研)

3. 医薬設計の実際 (DOCKの利用)

山本善雄 (武田薬品)

4. QSAR の発展と医薬開発 中馬 寛 (呉羽化学)

5. ゲノム解析と医薬開発

古谷利夫 (ヘリックス研)

会期: 1997年5月7日 (水)、8日 (木)

会場: 千里ライフサイエンスセンター5階

ライフホール

(豊中市新千里東町1-4-2)

参加費: 一般7,000円、学生3,000円、懇親会6,000円

当日の混乱を避けるために、事前に郵便振替にて以下の口座に送金下さい。

口座番号: 00970-3-121863

名称: 第9回日本蛋白質工学会年会

演題募集:

連絡先 (所属、氏名、住所、TEL、FAX)、希望発表形式 (口頭またはポスター発表) 表題・著者 (発表者には○)・所属・概要 (200字程度) を電子メール (テキスト形式) でお送り下さい。止むを得ない場合には、A4の用紙にて年会事務局宛郵送して下さい。FAXでも受け付けます。表題・所属は和文・英文の両文で、概要は和文、英文どちらでも結構です。

演題締切: 1997年1月31日 (金)

講演要旨:

要旨書式については、演者に直接お知らせします。今年度は、Protein Engineering 誌への掲載は行いません。

要旨締切: 1997年3月31日必着

送付先: 〒565 吹田市古江台6-2-3

生物分子工学研究所構造解析研究部門

第9回日本蛋白質工学会年会事務局

担当: 石川桃代

Tel. (06)872-8201 Fax. (06)872-8219

E-mail: pec@beri.co.jp

○第3回 家族性腫瘍研究会学術集会

会期: 1997年5月13日 (火) 9:00~17:30

会場: 神戸国際会議場 国際会議室

(神戸市中央区港島中町6-9-1)

参加費: 3,000円

プログラム:

シンポジウム

「家族性腫瘍診療における倫理問題とカウンセリングの実際」

教育講演

“Genetic Epidemiology of Familial Tumors”

John J. Mulvihill

(Dept. of Genet. Univ. of Pittsburgh)

“Genetic Counseling of Familial Tumors”

Elizabeth A. Gettig

(Genet. Couns. Program, Univ. of Pittsburgh)

宿題報告

「日本人家族性乳癌家系におけるBRCA1およびBRCA2の生殖細胞変異の解析」

三木義男 (癌研・化学療法セ)

一般演題

• ワークショップ (臨床・基礎)

• ポスターセッション

応募規定:

癌の家族内集積および遺伝性腫瘍に関する基礎的・臨床的研究、および症例・家系報告の演題を募集します。

(発表は会員に限ります)

締切期日: 1997年2月28日(金)

○第17回 国際 tRNA ワークショップ (17th International tRNA Workshop)

tRNA は、タンパク質合成という生命の根幹をなす現象において、遺伝暗号の翻訳の中心的役割を担う分子です。本ワークショップは、各国の tRNA 研究者が一堂に会して、その研究成果を紹介し、互いに討論する場を提供するものです。会議は合宿方式で、十分な議論ができるように配慮したいと考えております。また、初日に一般向けの公開講演会を行います。

会期: 1997年5月10日(土)~15日(木)

会場: 会議; かずさアカデミアセンター(木更津市)
公開講演会; 幕張メッセ 国際会議場(千葉市)
(5月10日)

主催: 第17回国際 tRNA ワークショップ組織委員会

○第1回 マリンバイオテクノロジー学会大会

会期: 1997年5月31日(土)~6月1日(日)

会場: 東京大学教養学部(目黒区駒場3-8-1)

主催: マリンバイオテクノロジー学会

発表申込締切: 1997年3月24日(月)

FAX または電子メール受付

発表要旨締切: 1997年4月24日(金)

郵送または電子メール必着

発表形式:

一般講演口頭発表(質疑含み15分、OHP 使用)

マリンバイオテクノロジー研究会が学会となり、今回が最初の大会です。一般講演に重点を置く予定にしておりますので、奮って発表をお申込み下さい。

発表・参加申込方法:

住所、氏名、所属、TEL、FAX を明記のうえ、下記連絡先までお申込み下さい。申込用紙をお送りします。なお、電子メールでお申込みの場合は、電子メールによる返事で申込要領をお知らせします。(Subject: moshikomi) でお願ひします)

参加登録料:

(3月24日まで) 会員: 一般 5,000円、学生 3,000円

非会員: 一般 9,000円、学生 4,000円

(3月25日以降) 会員: 一般 7,000円、学生 4,000円

非会員: 一般 10,000円、学生 5,000円

発表要旨集代を含みます。

○6th International PERSPECTIVES ON PROTEIN ENGINEERING

“Structure—Function Relationships”

Bioinformatics, Microbial Genomes, Molecular Evolution and Design

Plant Protein Engineering and Biocatalysis

Sun 29 June—Tue 1 July 1997 John Innes Research Centre Norwich UK

問合せ先: 第3回家族性腫瘍研究会学術集会事務局

当番世話人 湯浅保仁、野口眞三郎

〒541 大阪市中央区高麗橋4-2-7 興銀ビル別館8階

サイマル・インターナショナル関西支社 内

Tel. (06)231-2441 Fax. (06)231-2447

共催: 日本分子生物学会、日本生化学会、日本薬学会、日本癌学会、日本化学会、日本遺伝学会、日本ウイルス学会、日本内分泌学会、日本生物物理学会、日本農芸化学会、日本分光学会、蛋白質学会

連絡先: 東京大学大学院理学系研究科

生物化学専攻 横山茂之

Tel. (03)3812-2111 内線4392

Fax. (03)5689-5609

yokoyama@y-sun.biochem.s.u-tokyo.ac.jp

http://y-sun.biochem.s.u-tokyo.ac.jp/

WORKSHOP/

基調講演: 宮地重遠 会長、野口照久 副会長

シンポジウム: 次の5件ほかを企画しております。

海洋環境における微生物のコミュニティーレベルでの解析(大和田紘一・東大)、

微細藻類のバイオテクノロジー(大森正之・東大、松永 是・東京農工大)、

アオサ類の利用とバイオレメディエーションの可能性(能登谷正浩・東水大)、

海洋糖鎖生物学(星 元紀・東京工大)、

海洋天然物化学研究の新展開(伏谷伸宏・東大、

橘 和夫・東大) (カッコ内はオーガナイザー)

懇親会: 5月31日(土) 会費: 一般5,000円、学生3,000円

連絡先: 東京大学大学院農学生命科学研究科

水圏生物工学研究室

第1回マリンバイオテクノロジー学会大会

実行委員長 渡部終五

〒113 文京区弥生1-1-1

Tel. (03)3812-2111 内線7520、7522

Fax. (03)5684-0622

E-mail: mb@fs.a.u-tokyo.ac.jp

宿泊予約:

宿泊の予約は下記の日通旅行日本橋旅行営業所まで直接

お申込み下さい。

〒104 中央区新川1-1-7 新川ビル 4F

Tel. (03)5541-2471 Fax. (03)5541-2480(担当: 黒木)

First Announcement and Call for Papers:

The John Innes Centre (north east of Cambridge in Norfolk), is one of the largest European concentrations of scientists pursuing fundamental and applied research in plant and microbial biochemistry. It was the JI Centre's first scientific director, William Bateson, who coined the term "genetics"! The special emphasis of the 6th Conference will be microbial and plant protein structure-function relationships. Micro-organism genomes are helping to uncover functions in the human genome and the study and genetic manipulation of plants will be ever more important in human healthcare and economics. The opening speaker, from the Institute for Genomic Research (TIGR), will highlight the extraordinary pace of current progress.

Scientific Sessions:

Authors of lecture and poster communications are invited to submit manuscripts in advance of the meeting for rapid publication as part of an innovative resource: The '97 Perspectives CD-ROM & Internet guide.

Genomes & Function

Microbial Genomes

Clare Fraser (TIGR, USA)

Plant Genomes

Mike Bevan (Norwich, UK)

Swiss-PROT

Amos Bairoch (Geneva, CH)

Biomolecular Evolution & Design

Iain Campbell (Oxford, UK)

Shuguang Zhang (MIT, USA)

○第13回国際比較内分泌学会議

XIII International Congress of Comparative Endocrinology

ペプチドホルモンとその受容体、ペプチドホルモン遺伝子の発現調節、ホルモンと受容体の共進化、脳機能とホルモン、環境適応におけるホルモンの役割、発生・変態・成長のホルモン調節、代謝調節におけるホルモンの作用、無脊椎動物における神経内分泌系の進化、昆虫ホルモン研究の最近の進歩、ホルモンによる行動の調節など。これらのテーマに関するシンポジウム、特別講演、口頭発表およびポスターセッションが行われます。

George Lomonosoff (Norwich, UK)

José Marcos (CSIC, Spain)

Udo Conrad (Gatersleben, DE)

Enzyme Engineering

Chris Schofield (Oxford, UK)

Geoff Fincher (Adelaide, AU)

Richard Pickersgil (Reading, UK)

L Mario Amzell (J. Hopkins, USA)

Birte Svensson (Carlsberg, DK)

John Rafferty (Sheffield, UK)

Didier Marion (Nantes, FR)

M Lawrence (Parkeville, AU)

P Shewry (Bristol, UK)

POPE '97 Hybrid Wed/CD-ROM

Full papers and short communications, Structural Biology in Europe '96 & WWW Bioscience Index,

Call for Abstracts:

Abstracts of papers are invited for this conference. An on-line form is provided for this purpose, or abstracts may be sent by E-mail or post. Please indicate in your submission whether you wish the abstract to be considered as a full paper, short communication or poster.

Secretariat:

BIODIGM, 64, Langdale Grove, Bingham, Notts, NG 13 8SS, England.

Fax. +44 (0) 1949 876 156

E-mail: biodigm@dia1.pipex.com

WWW <http://www.biodigm.com/pope/pope6.htm>

会期: 1997年11月16日(日)~21日(金)

会場: 横浜国際平和会議場(パシフィコ横浜)
(〒220 横浜市西区みなとみらい1-1-1)

主催: 日本比較内分泌学会

問合先: 早稲田大学教育学部生物学教室

事務局長 菊山 栄

Fax. (03) 3207-9694

E-mail: kikuyama@mn.waseda.ac.jp

GENES TO CELLS

Order Form - 1997 Subscription



I would like to register subscription(s) to GENES TO CELLS for myself, starting with the January 1997 issue. The special MBSJ price is ¥8000 per subscription.

(Category 6)

Name

Delivery Address

.....

I would also like to register subscription(s) to GENES TO CELLS on behalf of the following persons or institutions, starting with the January 1997 issue. The special MBSJ price is ¥8000 per subscription.

(Category 7)

1. Name

Delivery Address

.....

2. Name

Delivery Address

.....

3. Name

Delivery Address

.....

PAYMENT DETAILS

I therefore attach payment for a total of subscriptions to GENES TO CELLS for 1997 at ¥8000 per subscription.

Unfortunately we are unable to process subscription payments in yen. We will therefore charge you an amount per subscription in sterling which will be equal to or less than ¥8000 at the exchange rate in force on the day that we process your order.

Please debit my American Express / Diners / Eurocard / JCB / Mastercard / VISA

card no: expiry date/.....

Signature date

Please send me an invoice (all subscriptions are payable in advance)

Name

Address

Street / PO Box

Town County.....

Country Telephone

Post/Zipcode e-mail

Please return to:

Anna Rivers, Blackwell Science Ltd, Osney Mead, Oxford OX2 0EL, UK

Tel: +44 1865 206206; Fax: +44 1865 206096

e-mail: anna.rivers@blacksci.co.uk

GENES TO CELLS

Genes to Cells

Vol 1, No 4, April 1996

Review Articles

The major pathways of protein translocation across membranes, *K Ito*

The HGF receptor family: unconventional signal transducers for invasive cell growth, *P M Comoglio & C Boccaccio*

Original Articles

A novel nuclease activity from *Xenopus laevis* releases short oligomers from 5'-ends of double- and single-stranded DNA
S Reichenberger, N Brüll, E Feldmann, B Göttlich, W Vielmetter & P Pfeiffer

Specification of posterior midbrain region in zebrafish neuroepithelium, *T Miyagawa, H Amanuma, A Kuroiwa & H Takeda*

Localization of mouse Rad51 and Lim15 proteins on meiotic chromosomes at late stages of prophase 1, *T Ikeya, A Shinohara, S Sato, S Tabata & T Ogawa*

Schizosaccharomyces pombe gad7+ encodes a phosphoprotein with a bZIP domain, which is required for proper G1 arrest and gene expression under nitrogen starvation, *J Kanoh, Y Watanabe, M Ohsugi, Y Iino & M Yamamoto*

A membrane cofactor protein transgenic mouse model for the study of discordant xenograft rejection, *N Yannoutsos, J N M Ijzermans, C Harkes, F Bonthuis, C-Y Zhou, D White, R L M Marquet & F Grosveld*

Editor-in-Chief

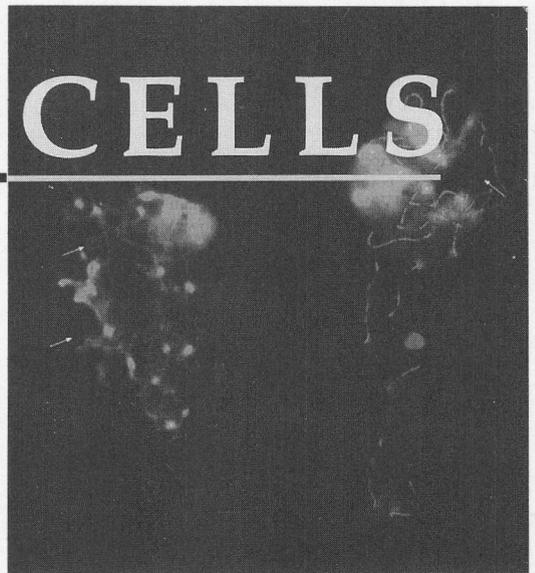
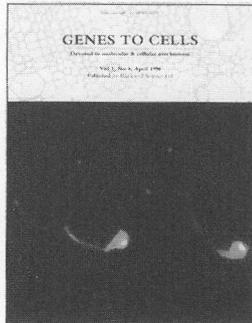
Jun-ichi Tomizawa

National Institute of Genetics, Mishima, Shizuoka-ken 411, Japan.

Tel: 81 559 81 6700; Fax: 81 559 81 6702;

e-mail: tomizawa@lab.nig.ac.jp

**NOW IN ITS
SECOND
SUCCESSFUL
YEAR**



**HIGH QUALITY PAPERS IN
MOLECULAR AND
CELLULAR BIOLOGY**

**EMPHASIZING BASIC
MECHANISMS UNDERLYING
BIOLOGICAL EVENTS**

**AUTHORITATIVE REVIEWS
ON TOPICAL SUBJECTS BY
WORLD EXPERTS**

Genes to Cells

Vol 1, No 6, June 1996

Review Articles

Introns and gene evolution,
S J de Souza, M Long & W Gilbert

Differentiation of T-helper lymphocytes: selective regulation by members of the STAT family of transcription factors

U Schindler, T Hoey & S L McKnight

Original Articles

Subunit assembly *in vivo* of *Escherichia coli* RNA polymerase: role of the amino-terminal assembly domain of alpha subunit, *M Kimura & A Ishihama*

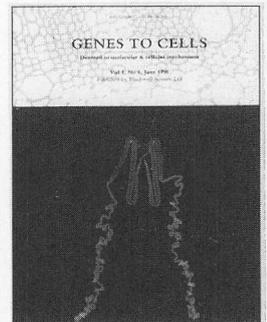
Subcellular localization of proteins governing the proteolytic activation of a developmental transcription factor in *Bacillus subtilis*, *O Resnekov, S Alper & R Losick*

The 12/23 rule is enforced at the cleavage step of V(D)J recombination *in vivo*, *S B Steen, L Gomelsky & D B Roth*

Developmental expression of the *Bombyx Antennapedia* homologue and homeotic changes in the *Nc* mutant, *T Nagata, Y Suzuki, K Ueno, H Kokubo, X Xu, C-c Hui, W Hara & M Fukuta*

Initiation of Sendai virus multiplication from transfected cDNA or RNA with negative or positive sense, *A Kato, Y Sakai, T Shioda, T Kondo, M Nakanishi & Y Nagai*

Escherichia coli RNase HI inhibits murine leukaemia virus reverse transcription *in vitro* and yeast retrotransposon Ty1 transposition *in vivo*, *W-P Ma & R J Crouch*



日本分子生物学会 会報

年 3 回刊行

第56号 (1997年 2 月)

発 行：日本分子生物学会 庶務幹事

製 作：学会センター関西

(財)日本学会事務センター 大阪事務所